

1月の園便り



「ゆきのひの
たんじょうび」

2020年 新潟青陵幼稚園 園長 加藤 由美子

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。
さて、3学期は、のぼら劇場があります。子どもたちが劇を通して、登場人物の気持ちを味わったり、友だちと一緒に協力・協同して劇を作り上げたりといい体験ができます。子どもたちの豊かな想像力が生かされ良い体験となるように願いつついます。

登園途中、いつも赤信号で止まる場所にアパートがあり、その廊下部分が車から見えるのですが、居室のドアの他にメーターボックスか何かの小さな扉も見えるのです。

その扉を見た つきはが「ママ見て！あのドア小さいよ。あんなに小さいの、誰が…」と言ったことがありました。

私がそこで大失敗してしまって、「小人さんのドアかな？」と言ってしまいました。

月映の想像では何が浮かんでいたのか、もしかしたら小人以外の何かだったかもしれませんが・・・私が先走って想像を狭めてしまったなあと後悔しました。

それが白ばらの春先のことです。いまだに信号で止まるとそのドアから誰かが出入りしないか必ず確認しているようです。いつか見られるといいなあと思って、私は何も言わないように気を付けています。

白ばら2組 阿部 つきは

このエピソードをいただいて、「そうそう、そうなんです、そうなんです」とひとり言を言っていました。こういうこと、よくあります。子どもたちの言葉を待たずに大人が自分のイメージを言葉にしてしまっている時が・・・大人は待てないことが多いようです。

子どもたちが自分の想いを言葉にしていない間は、素晴らしい世界を思い描き、その世界を創造している時なのでしょう。でも、大人が先に言葉を発してしまうと、子どもは自分の思い描いた世界を言葉にすることをやめてしまいかねません。そのことにつきはちゃんのお母さんは、すぐに気づかれ、つきはちゃんの内面の世界を大事にしてくださっています。つきはちゃんは今でもアパートの前を通る時にドアを確認している様子だということですから、つきはちゃんの想像の世界では、物語が創られていて、みんな生き生きと生活しているのでしょうね。ひょっとするとお母さんのイメージの“小人さん”の物語かもしれません。

想像力創造性は、今あることに何かを付け加えたり、組み合わせたり脈絡をつけたりにして、新たな世界を考え創り出していく力です。日々、この力を発揮して、遊びをより面白くしている子どもたちです。この時期に育まれた想像力創造性は、大人になったときにも内面からあふれ出てきて、未来の社会に新たなものを作り出していつてくれることと思います。子どもたちの想像力創造性を豊かに育むことができるように、保育者は言葉を控えて子どもたちの世界を大切にしていきたいと思っています。

1月の予定

日	曜	給食	降園時間	行 事
8	水	×	11:30	第3学期始業式です。
9	木		11:30	お餅つきの会です。お箸やお餅を入れる物等お持ちください。 役員の皆様とお父さんの会の皆様がお手伝いを していただきます。
10	金	○	2:00	給食が始まります。
11	土	/	/	第2土曜日
12	日	/	/	
13	月	/	/	成人の日
14	火	○	2:00	
15	水	×	11:30	誕生会です、1月生まれさんの保護者の方と一緒に祝いましょう。
16	木	○	2:00	お父さんの会の方が青ばらさんにコマ回しのお手本を見せていただきます。
17	金	○	2:00	
18	土	/	/	センター試験のためお休みです。
19	日	/	/	
20	月	○	2:00	
21	火	○	2:00	
22	水	○	2:00	
23	木	○	2:00	
24	金	○	2:00	
25	土	/	/	第4土曜日
26	日	/	/	
27	月	○	2:00	
28	火	○	2:00	
29	水	○	2:00	
30	木	○	2:00	
31	金	○	2:00	